

# 中本達也 白井 都 絵画展

国立の  
アトリエから

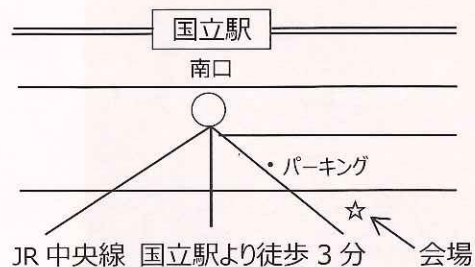
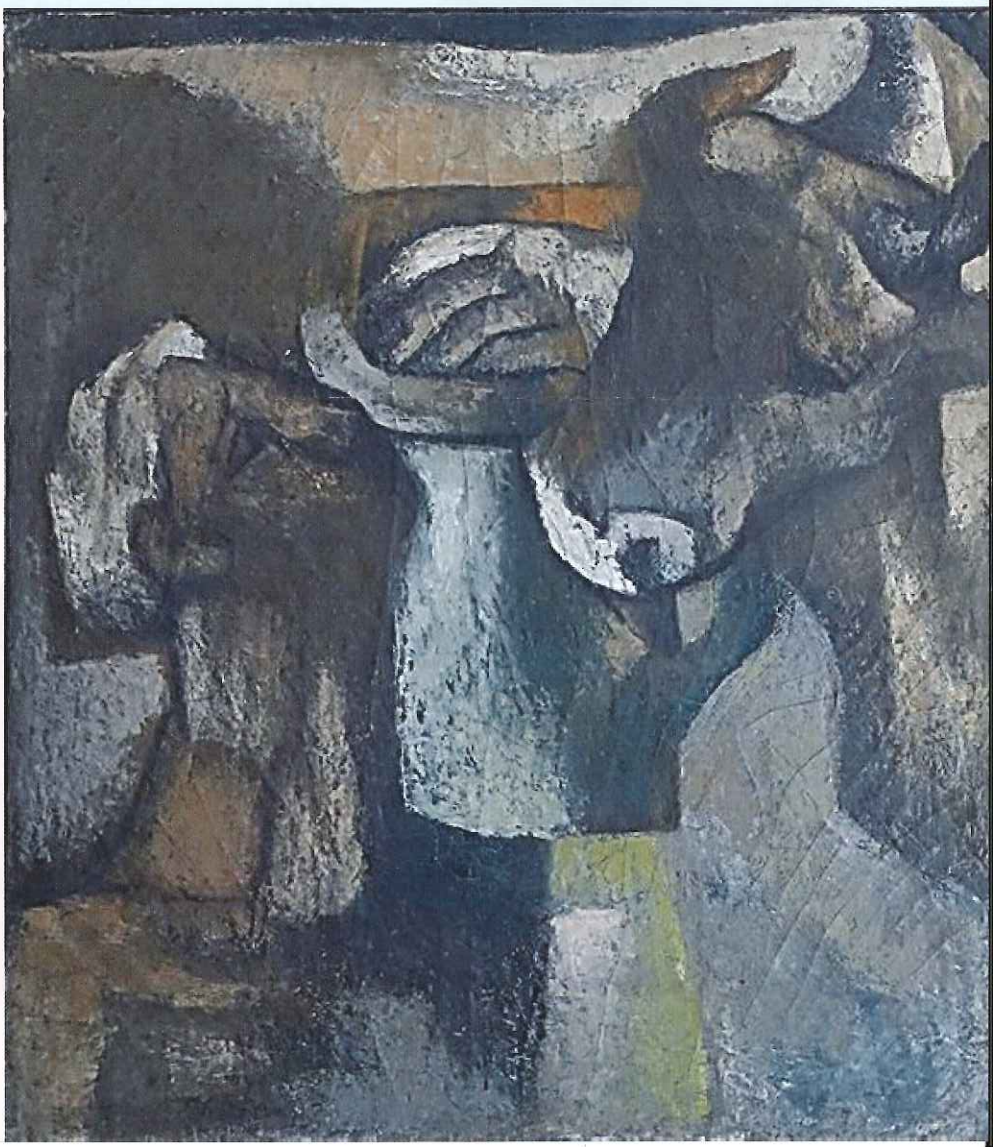
前期 2020年2月11日~2月17日 (2/18 作品入替の為、閉廊) 後期 2020年2月19日~2月25日

開廊時間 11:00 ~ 18:00 ※ 最終日 16:00まで

戦後間もなく国立に移り住み、美術界に新風をおこしながら、途半ば亡くなった画家中本達也。同志の画家として妻として中本を支え、70年にわたり国立で絵を教えた白井都。

昭和の時代、世界文学の多くの書籍に掲載された二人の挿絵と力強く繊細な素描、制作途中の未完の油彩画なども展示します。

日本の新たな黎明期、情熱と気概を持ち芸術の道をひたすら歩んだ二人の画家。その軌跡を辿る展覧会です。



画廊 岳 &  
ギャラリー・コロン

国立市東 1-14-17

☎ 042-576-9909



芸術の灯を消さないために

70年ほど前、雑木林の中の明かりを見つけ、「あそこにも家ができ。ほら、あそこにも・・・」そんな話をしながら、夕暮れの大学通りを歩く若い画家の夫婦がいました。戦後間もなく、水道も電気の設備もない国立に移り住み、二人は制作活動とともに近所の子どもたちに絵を教えました。画家としての未来への希望と不安を二人はゆらぐ灯に感じていたのかも知れません。

新たな表現を切り開き、後に安井賞を受賞した中本達也と、彼を支え静謐に美の探究を続けた臼井都です。中本は多摩美術大学油絵科の教授在任中に51歳で病死しました。彼の亡くなった後も臼井は直向に絵を描き絵を教え、芸術の灯をともし続けました。臼井は養護施設で暮らすことになり、アトリエと作品が残されました。

中本自身が設計し建てたアトリエを芸術文化資源として保存するための活動を続けてきましたが、老朽化が進み現状を維持していくことが困難になりました。

このたび、アトリエに残された数多くの貴重な作品と資料を公開する機会を頂いた画廊岳代表の佐野佳世様、また、理解と協力を頂きました多摩美術大学美術館、たましん歴史・美術館、国立市役所の関係機関の皆様にご心より感謝いたします。

中本達也・臼井都絵画展  
開催実行委員会 DABA



#### 中本達也（なかもと たつや） 略歴

- 1922 山口県に生まれる（大島郡東和町）。
- 1988 東京高等工学校(現、芝浦工業大学) 建築科に入学。  
2年後、帝国美術大学(現、武蔵野美術大学) に移籍。
- 1943 帝国美術大学西洋画科を卒業。学徒動員 北満国境に従軍。
- 1951 自由美術家協会展 優秀賞受賞。翌年、会員に推挙される。
- 1959 第1回みずゑ賞選抜作家展 みずゑ賞受賞「黒潮」。  
第3回安井賞展 安井賞受賞「群れ」。
- 1963 自由美術家協会を退会。渡欧 イタリア・ロマネスク芸術探訪。
- 1967 作品集「残された壁」刊行。
- 1968 「人間断片」展 壱番館画廊
- 1970 「呪われた美－新・美術入門」刊行。  
多摩美術大学油絵科教授に就任。
- 1972 房総鋸山に岸壁彫刻「岩の声」制作。
- 1973 展望回顧展（東京セントラル美術館）。  
作品集「中本達也-人間賛歌」刊行。7月22日脳腫瘍で死去。

#### 臼井 都（うすい みやこ） 略歴

- 1947 女子美術専門学校(現、女子美術大学) 日本画科卒業。
- 1951 創造美術展 出品。
- 1952 新制作協会日本画部 出品。
- 1955 自由美術家協会展 優秀作家賞。
- 1958 自由美術家協会 会員に推挙される。
- 1963 渡欧 中本に同行しイタリア・ロマネスク芸術探訪。
- 1964 自由美術家協会を退会。
- 1973 美術ジャーナル誌「鉦脈」推薦。
- 1974 第1回美術ジャーナル賞展 美術ジャーナル大賞受賞。

